やる気発生装置

教室通信 Vol.２５６４
Ｒ６．３．５
個別指導教室
セカンド・キャンパス
０７５－７１１－０３９９
https://www.second-campus.com/

それでも、中期は公立入試の主戦場

公立高校の中期選抜倍率「１倍割れ」で、入試制度が曲がり角に来ているのでは、という記事が京都新聞に出ていました。進路を早く決めたい受験生が中期選抜を待たずに私立に流れてしまうのが原因で、制度の見直しが必要…というのが、その趣旨です。いまの制度に改善点があるのは感じますし、京都新聞はとりわけ京都の公立高校を熱心に取材されている新聞ではあるのですが、これは変な分析だなと感じるところが多いです。餅は餅屋といいますか、僕は新聞記者さんよりも確実に現場とデータがっつり見ていますのでね。

３月まで待てずに私立入学を決める受験生がいるのは確かです。特に堀川や西京などの専門学科が希望ならば前期選抜しかないので、それが叶わなければ中期で普通科よりも特待生で行ける私立に、という選択も大いにありえます。しかし、今回の入試で前期選抜の不合格者は全体で５１３８人、対して中期選抜の志願者は６０２７人（比較の都合上全日制に絞っています）ですから、前期を受けずに中期だけで公立をめざす人が少なくとも８８９人いるわけです。比率にすると１７％程度で、これは過去５年間ほぼ変わっていません。今年の当塾では、公立志望の子は全員前期選抜を受けていますが、「中期に絞る」という戦略は当然ありえます。こうした点だけでも、仮に公立の入試を２月に１本化したところで倍率が大幅回復するとは考えにくいことがわかります。公立離れにはいろいろな要因が関わっていて、それをただ中期選抜のせいにするのは、あまりに乱暴な議論だと言わざるを得ません。

と、つい評論家みたいな話になってしまいました。いま中期入試を２日後に控えた受験生、そして次なる受験生たち（来年の入試制度が今から突然大きく変わることは考えられません）に改めて知っておいてほしいことは、今の入試制度上、公立入試のメインステージはあくまでも中期選抜であり、今日・明日の一押しで当日出せる力を大きく左右できるということです。私立・前期と受験を続けてきたなかで、分かっていてもなかなか集中を維持しにくい時期になっていることは想像つくんですが、それでも当塾の中期組みんな頑張ってくれています。これまで積み重ねた努力を当日発揮できるよう、あとわずかな時間を生かしてもらえたらと願うばかりです。当塾、そのための場所です。

今日は朝から冷たい雨が降っていますが…、中期入試が終わる頃からは暖かくなりそうです。春の訪れです。

当面の教室予定

3/5(火)～3/6(水)
★早朝学習会あります★
７：００～８：１０
１６：００～２２：００

3/7(木)
１６：００～２２：００

3/8(金)
★早朝学習会あります★
７：００～８：１０
１６：００～２２：００

3/9(土)
お休みです m(_ _)m

3/10(日)
１６：００～２１：００

※21 時以降、教室に生徒が残っていない場合には閉室させて頂きます。
※天候や各種感染症の状況等により、変更させて頂く場合があります。

明日３／６（水）のテスト

学校/学年		教科
紫野	1	言文/数ⅠA②
洛北	2	論国/論表Ⅱ
北稜	2	生物/国語/保健
鴨沂	1	化基/言文/保健
鴨沂	2	地総合/論表Ⅱ/保健